

神奈川県の子ども医療費助成 中学校卒業まで拡充を!!

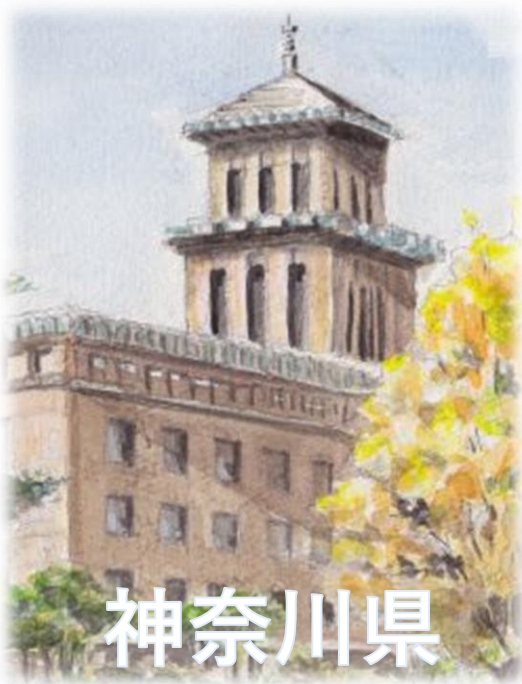
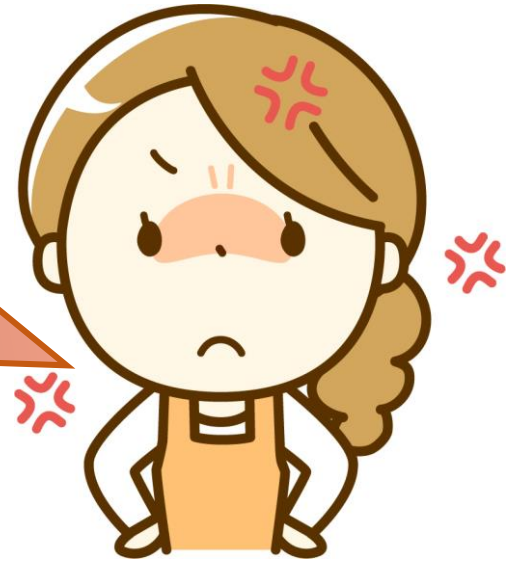
いま神奈川県の助成は、未就学児まで ◆◆◆◆

全国の都府県の3割が小学校卒業以上、そのうち10都府県（全国の2割）が中学校卒業までを対象年齢としています。

関東地方の都県の助成は・・・

東京都・群馬県⇒中学校卒業まで
茨城県・栃木県⇒小学校卒業まで
千葉県⇒小学校3年生まで
埼玉県・神奈川県⇒未就学児まで

関東で
一番遅れて
いるの!?



助成



- 県内では市町村の独自努力により、29市町村（茅ヶ崎市と逗子市が10月から）が中学卒業以上まで対象としています（大井町は18歳まで）。小学校卒業までが4市町。
- 神奈川県の助成が未就学児までのため、小学生以上の市町村の助成は全て持ち出しになっています。

神奈川県への署名にご協力をお願いします



- みなさんから寄せられた署名は、12月に開かれる神奈川県議会に提出予定です。
- 多くの署名を提出したいと考えていますので、ご協力をお願いします。

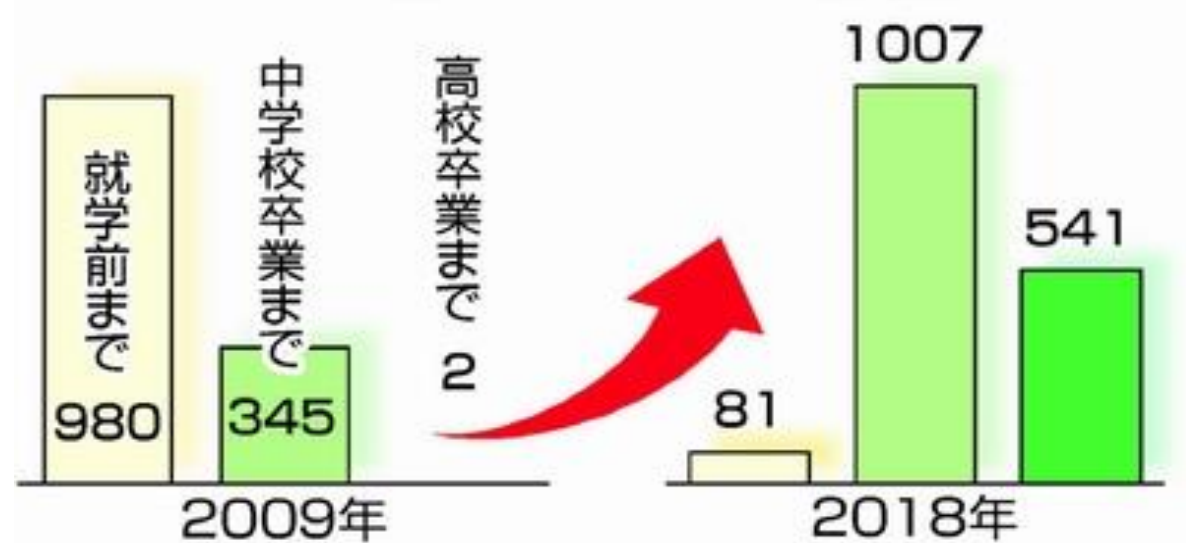
神奈川県子ども医療費無料化を求める連絡会

事務局：神奈川県保険医協会内（横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 TSプラザビル2F ☎045-313-2111）

◆ 子ども医療費助成はなぜ必要なの？

- 小児医療費助成制度は、免疫力が低く病気にかかりやすい子どもに早期発見・早期治療を促す施策としてだけでなく、有効な少子化対策として全国的に定着してきました。
- この制度は都道府県の助成に市町村が上乘せする形で運用されています。
- 全国の市町村の9割が中学卒以上を対象としています。

子どもの医療費助成を行う市区町村数の推移
(通院時の主な助成対象年齢。各年4月1日時点)



◆ 助成の拡充はコンビニ受診にならないの？

- 医療費助成を拡充したら、コンビニ受診（頻回受診）が増えて、医療費が増えるのではと考える人がいますが、拡充している都府県では逆に医療費の節減につながっているという調査結果がでています。
- 重度化する前に受診することにより、早期治療につながり、医療費の増加にはなっていません。
- また、子どものときに早期治療をすすめることによって、大人になっても健康維持ができることにつながります。

◆ 神奈川県には拡充する財源はあるの？

- 神奈川県は、東京都・愛知県に次いで、全国三番目の財政力があります。拡充するかしないかは財源ではなく、県の姿勢です。
- 黒岩県政に対して、県の市長会・町村会から、小児医療費助成制度の拡充の要望が出されています。「未病」を掲げている神奈川県は、まず優先して医療費助成の拡充をすべきではないでしょうか。

◆ 中学校卒までの拡充で市町村はさらに前進！

- 東京都は、すべての区市町村で中学校卒業以上、18歳までが3区村。
- 群馬県は、すべての市町村が中学校卒業以上、18歳までが8町村。

< 神奈川県の助成内容 >

- 神奈川県は、未就学児までだけでなく、一部負担金と所得制限もあります。
- 対象⇒就学前（小学校に入学する前の3月末日まで）
 - 一部負担金⇒0～3歳：なし、4歳以降：通院1回200円 / 入院1日100円（調剤は除く）
 - 所得制限⇒0歳：なし、1歳～：旧児童手当旧特例給付基準

